

## 学校経営のポイント

### “協力的人間関係”を築く力を育てる

若井 彌一

人間は、誰も一人では生きてゆけない。人間は誰も、他の人々の力を借りることなく生きてはゆけない。この自明なことを、学校教育のなかで、あらゆる教育活動のなかで児童・生徒に気づかせ、自覚させ、協力的な人間関係を構築していく力（協力的人間関係力）を育てる取組みの重要性を述べておきたい。

#### “競争的人間関係”と“協力的人間関係”

紙面に限りがあるので、くどくどしい説明はできないが、われわれ人間は、競争的人間関係のなかで生きると同時に、協力的人間関係のなかで生きている。

生存競争という言葉に象徴されるように、経済的競争原理がこの社会では強く働いているので、個人であれ、複数の人々によって組織されている企業等であれ、競争に敗れて、極端な場合には収入の目途がたたなくなったり、意に反して職場を追われたりする。「法律に定める学校」という組織体でさえも、この経済的競争原理と無縁ではあり得ない。

山口県萩市に設置されている萩国際大学が、大幅な定員割れで経営不振に陥り、民事再生法の適用を東京地裁に申請し、同地裁により保全命令が出されたという（6月22日付け各紙報道）。

定員割れを招いてしまう大学は、大学としての生存競争に敗れてしまったのであるから、手助けする必要はない、と単純に判断すれば、民事再生法適用の必要はないのだが、幸いにも保全命令が出され、支援する企業が名乗りを上げた。

今後、この大学が大幅な定員割れの状態を脱出できるかどうかは、大学関係者の協力的人間関係によってどのような知恵が出され、実行に移されていくにかかっている。

#### “協力的人間関係の感動”を体験させる

バブル経済が崩壊し、10年余に及ぶその後の経済政策が、期待されるほどの効果を上げることができなかったことから、「国際競争力」をつけることの必要性が広範な分野で強調され、教育の分野でも競争意識を喚起し、学力向上を促すという論調が表面化してきている。

個人的な競争意識を促すことの教育的効果ももちろんあるのだが、他面において、複数の人々が、あるいは多数の人々が1つの目標を掲げ、ともに力を出しあって目標を達成することの重要性を過小評価することにならないバランス感覚が、教育関係者には求められるのではないか。

一人の人間ができることには、おのずと限界がある。そして、複数の、あるいは多数の人々が力を合わせることにより、われわれ人間は、さまざまなすばらしい「作品」を産出してきた。

好評を博したNHKの番組「プロジェクトX」は、そのような例のごく一部をわれわれに紹介してくれた。この番組にほぼ共通しているのは、複数の、あるいは多数の人々の協力的人間関係が、いざという場合にどれだけ大きな力を発揮するか、ということである。

児童・生徒にこのような“協力的人間関係力”を育む取組みに、チャレンジしていきたい。

\*

「心豊かに生きる子どもをはぐむ教育課程の創造  
関係力に着眼して」公開研究発表会

6月30日（木）・7月1日（金）

問い合わせ先 = 上越教育大学附属小学校

TEL = 025-523-3610 FAX025-523-5098

（わかい・やいち = 上越教育大学教授・附属小学校校長併任）

本紙は <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp> でも掲載

●新刊案内●

大好評発売中！

教育開発研究所刊

■無理難題を持ち込む保護者に、どう対処する？ 尾木直樹【編】A5判225頁・定価1995円

## 校長・教頭のための困った親への対処法！

研修誌・図書の小社への直接注文は、無料FAX 0120-462-488 をご利用ください（24時間受付・即日発送）